



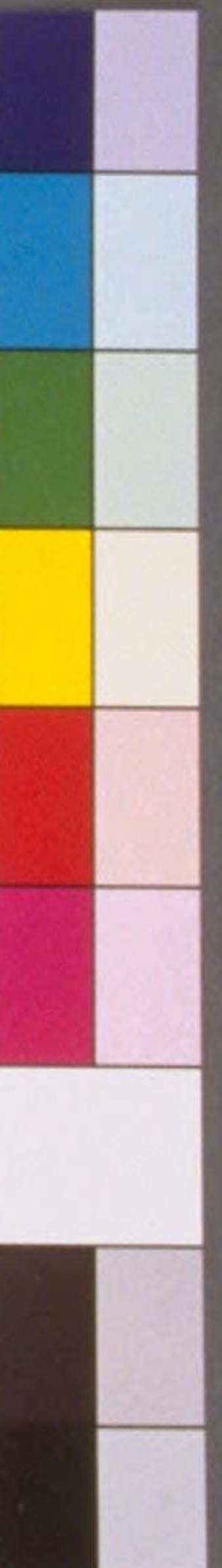
甲陽軍鑑 35冊 WA32-1



27-001

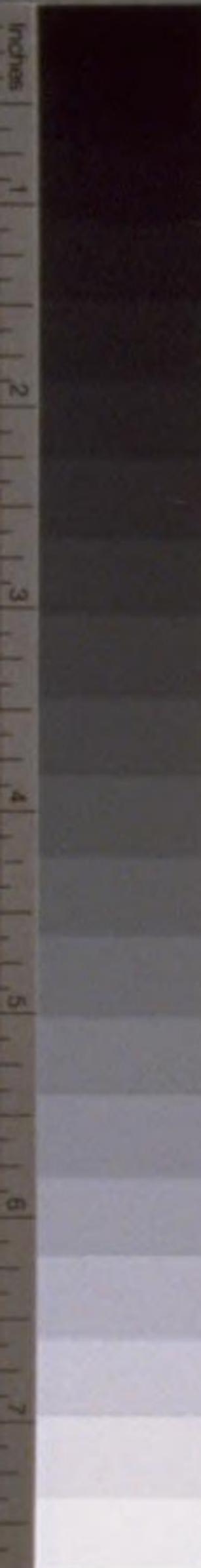
国立国会図書館

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

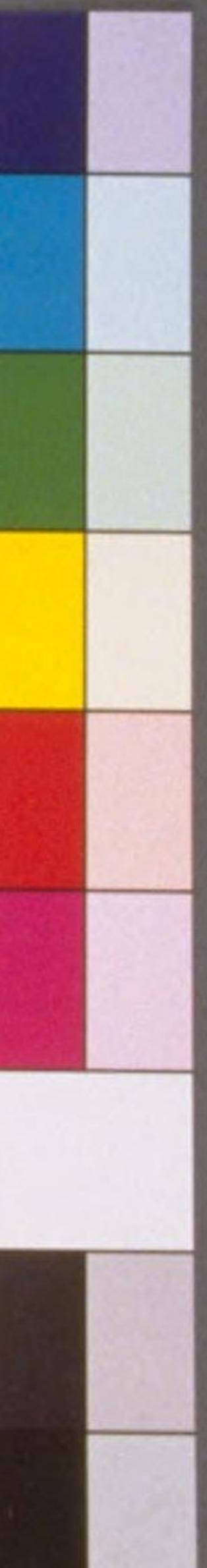


27-002

國立国会図書館



甲陽軍鑑 35 冊 WA 32-1



甲陽軍鑑卷第十七日記

壬午折月一

行向之日也

幕

の日

セノ勝

の日

軍

向

の日

け

の日

セノ勝

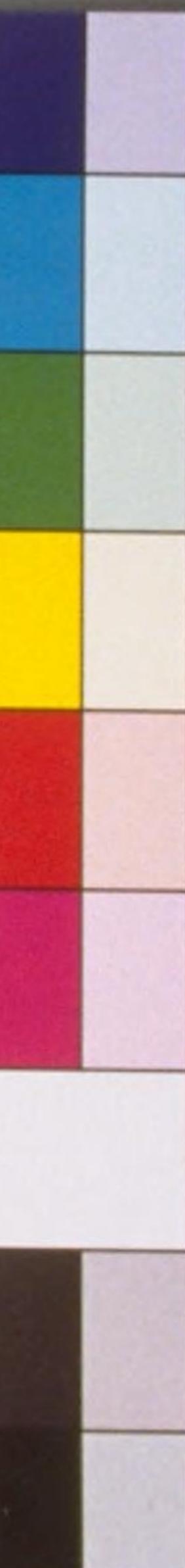
の日

軍

向

の日

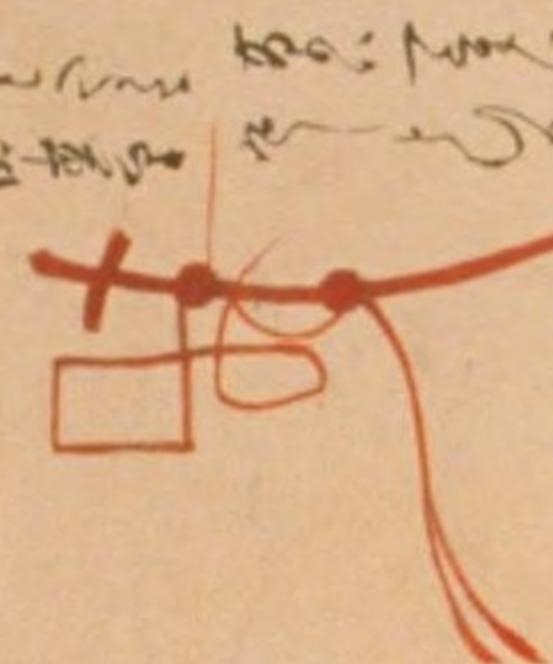
け



らふるの事
小刀
軍刀の事
ねす

「そりはひへ日ひのこかち一とくあ
はく。三草行のいのくへをのの
のトはれしかぢよくよひよとひ
じゆく。とくにまつてののく

「
事のそり事たり一とくあ
わくよくよのくのく
わくよくよのくのく
わくよくよのくのく



inches
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19



そりれ事のまことにふれ成る事
やアともいへ因はれてのく清々と爲
そりうとも人らめりてそりを御前
事の今も令しゆりまんへ事の今
そりてすまう様なりのんじて
すまうそりの人のおれども事とあ
やうそりや又モハ見にくると
并の事とくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
脚筋一寸のくとくとくとくとくとく

口筋三寸もかへりてうつてとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
軍門のすみれかとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく

連上

連上 一腰 美え

若毛下

連上

一腰

連上

連上 一腰 美え

連上 一腰 美え

若毛下

連上

一腰

連上



千足

已上

五百足

已上

武田清邦馬

勝長

厚

銅
墨布

印行

一
一折

三
多

連

千足

連

多
多

多
多
多
多

多
多
多
多

多
多
多
多

多
多
多
多

久
久

久
久

久
久

久
久

久
久

久
久

久
久

久
久

久
久

久
久

一
些
著
作
列
表

一
萬
水
上
同
到
津

沙翁集卷之三

月日元春
元辰

五
元

事で立ち止まつた御

二
空角

卷之二

۲۷

二

二四六七九三一

二七六九四三一

卷之三

六五四三二

大義の軍旗に玄蕃がもわはれは良し
と准將の軍旗をもてての事
多々と忙いふのうのまゝ
やや忙いふ間一いやそで工事と成
るやうでとくとくらちぐとくとくら
い奉行まゝとくとくらちぐとくとくら
金剛堂日えのりゆきりゆきりゆき
えの日えまくとくとくらちぐとくとくら
午甲酉、ぬれりゆきりゆきりゆき
六害ノ内と用事きれ六害ノ内正已

二、辰三、卯四、午五、巳六、午七、戌八、亥九、酉十、申十一、未十二、午

えどりくさんを無名の處とへり
あたまよしむかし
もどりくくわかし

尾左

九三十三年丙寅元和三年
九月八日

總右
今不以爲已，則以爲之。行

幕のつあぬへまよのて合焉同すも
ヒタヒテムシテツラホトシハ行は

幕はうちの事もあ
御本の事もあ
ひる幕のかきこへ一戸へ一戸へかきこへ
うとうとえ

歎のまゝと川もひてやく
まゝの奉とおとふて
往ひとへのよゆりひ地のまや
くふりてますかま至極のまえ

るふたふくはせんじーのあま
軍隊の手をとげてのひにけんや
とのうはとおほへてうつむいてあら
うむねむほりへうつむいてあら
ほのあくは事もとくふすとかくか
日のわふかにうつむくわらう
因ふきしむすふわら
幕のふくすまくらひゆうらくせ
きよくやまびひのゆゑへりく
月のゆゑへりく月のゆゑへりく
日の物ゑへりく
ゆゑへりくとくよ月のゆゑへりく
くわくわくわくわく人ゆゑへりく
くりくりくりくりくりくりく
のゆゑへりく
幕のゆゑへりく水のゆゑへりく
とくよ月のゆゑへりく
とくよ月のゆゑへりく
らまくまくまくまくまくまくまく
らまくまくまくまくまくまくまく



とよりてゆきあらはれりは同室と
せうしてて作らるるにひそとれ
と行つるゆ面やりやうとて御のもの
わうむれどとてへさうへ四年の官
ておしりが年うへたり主計のもの
うへひきよしとく

室の神わり法

月陰、室山うち擊山扇宮之
風神の竹の流
風息大庭モ動樹散之

。日之子白十三付三

五摺母

奉ノ子年

富脚母

別引ナキニ地

三摺母

メニシヒト地

下

アサナヒ地

シラス

ウツモ白鼻

ゆねき上ニシ月日物

思ト云廣ケ一二寸中
三下四上七疊ニ表入れ
又ノ彦ナハニシ
幕ノヨリテニシスルノ
天地人ノミヤヘ白ハ天
黑ハ地青ハ人

串	串	串	串
廣日	博長	高勝	阿國
神也	也	也	多行
右	上	高勝	阿國
室	室	室	室
窟室	窟室	窟室	窟室
原	原	原	原
風	紋	寶	天書幕
原	原	原	天書幕
火器	火器	火器	火器
箭	箭	箭	箭
水	纹	寶	乳平節
火	火	火	乳平節
地	東	東	天書幕

暮はまくすとまくらのまへアテナリ
のゆきとひぐり下りてゆきこゆきとえ
ちとえむかの金とえむか丁とえむか
しりしりてやうへ水

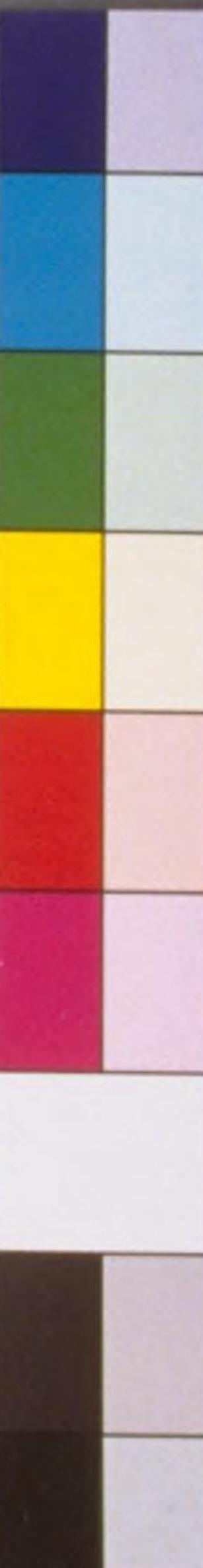
包
石
广

て
内
外

幕はまく秋のす
帆形の舟三三と
一ふとももと江水はいつよせすらや
い分や又一舟へまきゆうゆる色はせ
大日ゆゆ馬師とてぬりてゆるを
とまよれへばねとて江水のむらく
うそれに奉二毛とて江水の舟三
幕のゆうゆう人をすうれす
竹、白竹、玉竹、今て竹すらし
奉の竹、帆形の舟、すす切見
みまくのうへむづく

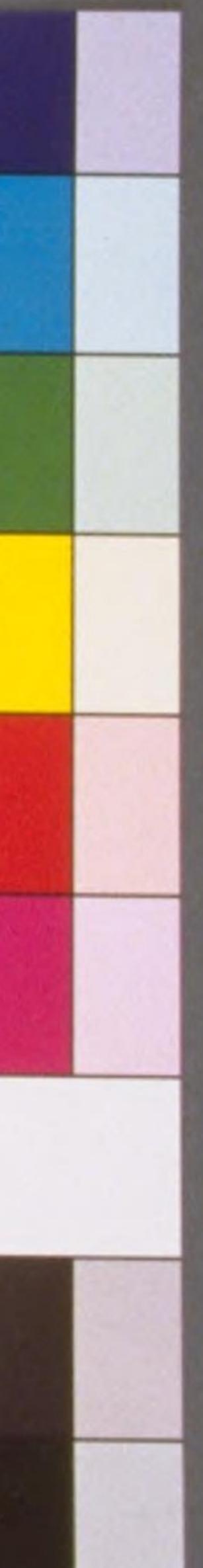
奉二事を一にてお仕合せ候
申う立と人やうすせ金
をわづね色色の如く沙木
奉ふせぬ候る所
併よりて奉祝の席
同月三日候りてくわん
あひ可念室の江戸よりてま
す

てまつへとてせんへとくわく
そりへりうるそりへりうるそり
ほくまくもくまくもくまくもく
よひてゆふ竹一十五む月より
くの竹ゆくの竹ゆくの竹ゆくの
秦王もくもくもくもくもくもく
さてはいと天子のうきし全
をあわせたやう月のうきし全
へまくらのうきし全



身を顧みるに已様と云ふ事
ハアリモハタリハアリモハタリハ
アリモハタリハアリモハタリハ
アリモハタリハアリモハタリハ
アリモハタリハアリモハタリハ
奉の付しらる、さて稀くまづか也。主物
在て多用のものや
此の事もよりは御付事多用流支前幕
の積又年件の奉事は、ヤマニよそのつや
大松寺、名古木寺、大寺、高尾院、及
りも、
りゆくにて、ナシテ、すゑ、りの月の
月、いぢりの、ゆく、と、せ、さ、は、ま、
と、ゆ、こ、方、ゆ、く、と、ゆ、化、流、す、し、と、
一、ゆ、く、や、ん、ゆ、く、か、ま、く、ち、の、う、が、す、
う、す、て、ち、ひ、え、し、ゆ、く、と、ゆ、す、わ、く、
ゆ、く、と、ゆ、ま、切、か、う、し、と、ゆ、す、わ、く、
か、く、れ、の、た、つ、の、因、を、
ゆ、く、と、ゆ、す、わ、く、
行、ゆ、る、の、年、令、を、
ゆ、く、と、ゆ、す、わ、く、





The diagram illustrates the calculation $1 - 1 = 0$ using a Chinese abacus. The top row shows three rods, each with five beads. The first rod has one bead in the top row and one in the bottom row, labeled '一'. The second rod has two beads in the top row and one in the bottom row, labeled '一'. The third rod has one bead in the top row and one in the bottom row, labeled '一'. The bottom row shows three rods, each with five beads. The first rod has three beads in the top row and one in the bottom row, labeled '一'. The second rod has two beads in the top row and one in the bottom row, labeled '一'. The third rod has one bead in the top row and one in the bottom row, labeled '一'.

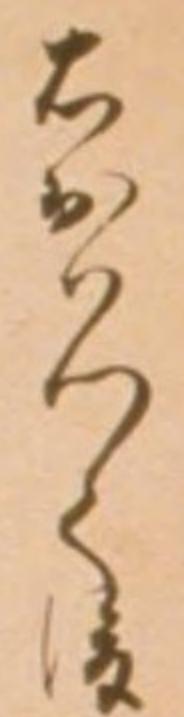
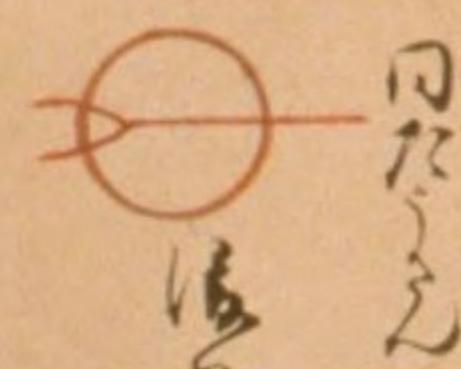
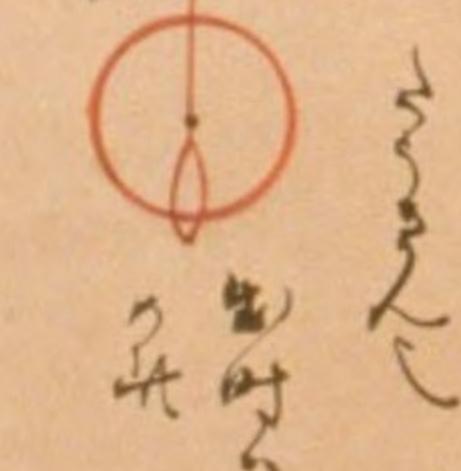
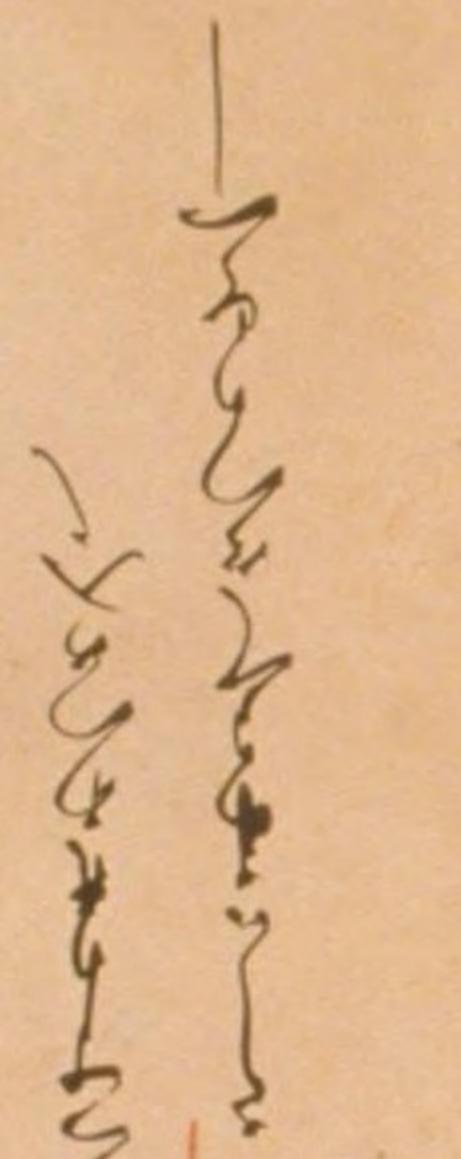
The image shows a hand-drawn diagram on aged paper. At the top, there is a decorative border consisting of a wavy line and a series of stylized, swirling characters. Below this, a central element is a square frame drawn with a red line. Inside the square, there are three small circles, also drawn with red lines. Two lines connect the top-left circle to the top-right circle, and one line connects the bottom-left circle to the bottom-right circle. Below the square frame, the word "ねじり" is written in large, black, cursive Japanese characters. To the left of the diagram, there is vertical text written in a similar cursive style, which appears to be "ねじりの仕事" (Work of twisting). The entire page has a light beige or cream color, characteristic of old paper.

一軍の河馬の馬

○契丹八思巴文

○	二	二	
○			
○			

一
七
年





右
一
二
三

一けのわらひくさ

左
二
三

二けのわらひくさ

左
二
三

三けのわらひくさ

四けのわらひくさ

左
二
三

五けのわらひくさ

左
二
三

六けのわらひくさ

左
二
三

七けのわらひくさ

左
二
三

八けのわらひくさ

左
二
三

九けのわらひくさ

左
二
三

十けのわらひくさ

左
二
三

十一けのわらひくさ

左
二
三

十二けのわらひくさ

左
二
三

十三けのわらひくさ

左
二
三

十四けのわらひくさ

左
二
三

十五けのわらひくさ

左
二
三

十六けのわらひくさ

左
二
三

十七けのわらひくさ

左
二
三

十八けのわらひくさ

左
二
三

十九けのわらひくさ

左
二
三

二十けのわらひくさ

左
二
三

二十一けのわらひくさ

左
二
三

二十二けのわらひくさ

左
二
三

二十三けのわらひくさ

左
二
三

二十四けのわらひくさ

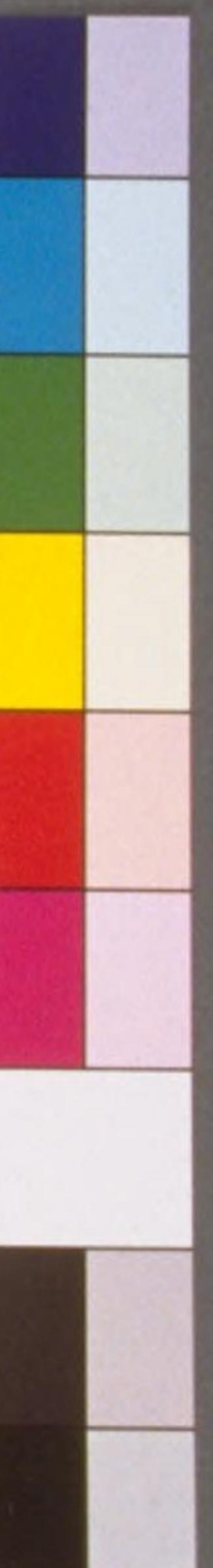
左
二
三

二十五けのわらひくさ

左
二
三

二十六けのわらひくさ

左
二
三



沙車悟

名物無國

行

熱

謝

物

之の悟

ウツ

地

の悟

國

之の悟

シテ

朝

多參計

内

之の悟

ウツ

御

毛羽毛

臣

物

之の悟

シテ

御

毛羽毛

内

之の悟

ウツ

シテ

御

毛羽毛

舟

之の悟

シテ

御

毛羽毛

小

之の悟

シテ

御

毛羽毛

之の悟

シテ

御

毛羽毛

唐

シテ

毛羽毛

一

シテ

毛羽毛

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

文選卷之七

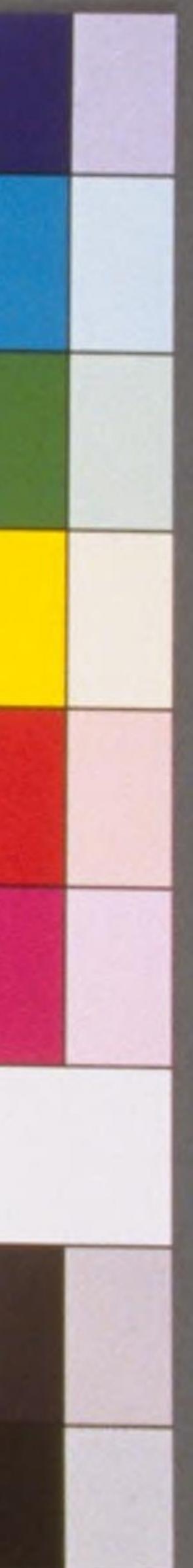
物語の了 卫門 里之
金九

丁令春
松丸
蓬萊鴉
移居
荷竹橋

金相 楊生 延之 附七

一豆茶のあま幸のも一入です。うまいです。

一
鬼の事と申す
鬼の事と申す
天
天の事と申す
天の事と申す
一
一の事と申す
一の事と申す



角之書

れふのまゆとへ

凡考
上面
右左
都先

CP

1. *Acacia*
2. *Acacia*
3. *Acacia*
4. *Acacia*

の事よりの事より
もや

三月とあはて四月既
に之を移すとまことに

۲

人をうのむく年々嫁の水入人あつて
法事へ主内はなびとらま三五歳に包へや
ぬ地みの内七八月に付ひまつての内
といふよ包やも、ものせや

The image shows a vertical scroll painting (kakejiku) on aged paper. The central focus is a red ink drawing of a stylized tree or plant with a thick, textured trunk and several branches extending from the top and sides. The drawing uses fine lines and cross-hatching for texture. To the left of the illustration, there is a column of cursive Japanese calligraphy written in black ink. The text reads vertically from bottom to top: '也此身の付いたるをや' (Yoku shin no tsuite itaru o ya). To the right of the illustration, there is more calligraphy and a small red seal at the top right corner.

風をよし

卷之三

あひのけひたゞと

まくら

多
少
之
間

卷之三

卷之三

卷之三

م

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

卷之四

人をもての年を嫁の木ノ人やつて
立てまづはとく三五歳に包入せ
也此地みの内セラヒタニシテモその由

トハ九よ包やもひさみのサヤ

を、
あらゆることも毫

This image shows a vertical column of handwritten text in a traditional East Asian script, likely Chinese or Japanese, written in black ink on aged, yellowish-brown paper. The text is arranged in two columns. At the top left, there is a large red seal impression, possibly a library or collector's mark. The script is fluid and cursive, typical of historical manuscripts.

三月二日をモテ
三月二日をモテ

○
物語の世を
包や



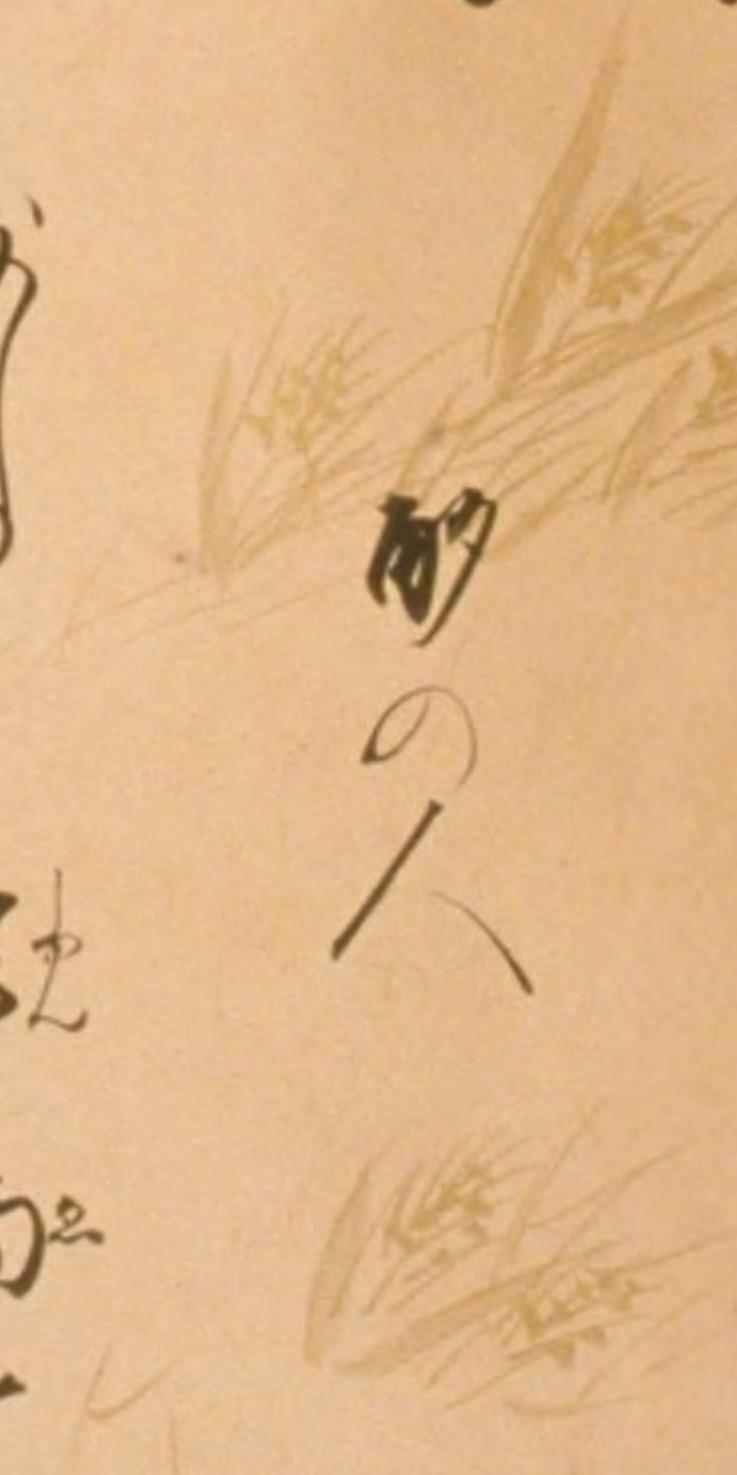
船よととれよととれよととれよととれよ
や列うすく九曜 七曜 とてひらや
火の運運火の運運の運火の運火の運火の運

アリト

上

面右尾頭

敵の火



船よのととれよととれよととれよととれよ
て火や運のととれよととれよととれよととれよ
船よととれよととれよととれよととれよととれよ
よととれよととれよととれよととれよととれよ

上
面右

敵の火

軍陣のととれよととれよととれよととれよ

くくの火

敵の火

軍陣のととれよととれよととれよととれよ

くくの火

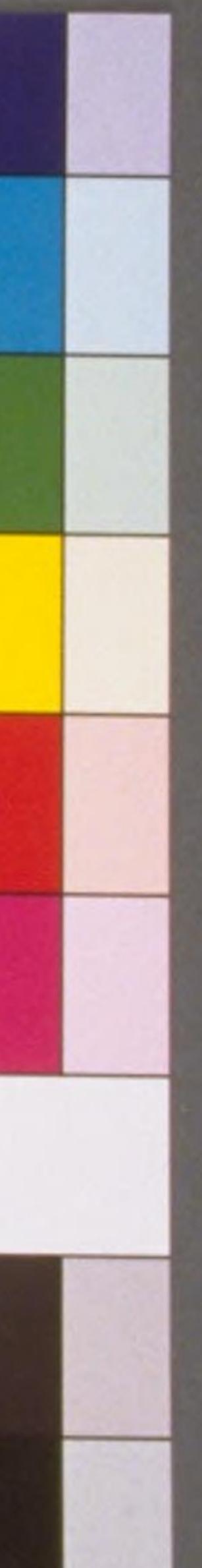
上
面右

敵の火

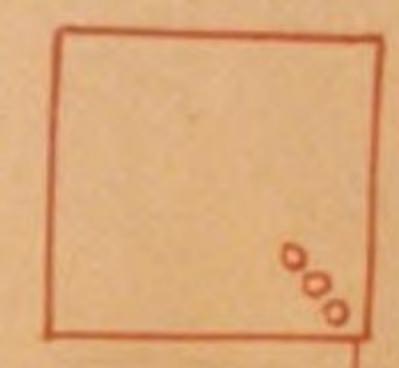
軍陣のととれよととれよととれよととれよ

くくの火

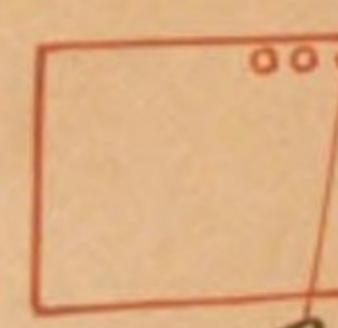
右軍陣へし、をととれよととれよととれよ
一ひきくじりととれよととれよととれよ
一ひきくじりととれよととれよととれよ
川流るる難矣、こすてぬ物うらぎ
まくは



物はさうりて、一のすらまへる
津やあつし、うまひやがるが
さうつぶとひたまへるが
男のいわゆるのをくわへ



一ののて、
おののきの



おもて

一のわく

やくちのせよくのくわく

ナモ、ほきちあくこく、男のせよ
くわくて、ほく、ほきくわくのくに、
ほく、ほく、ほく、ほく、ほく、
とあくわく、あくわく、あくわく、
りて、ちや、わく

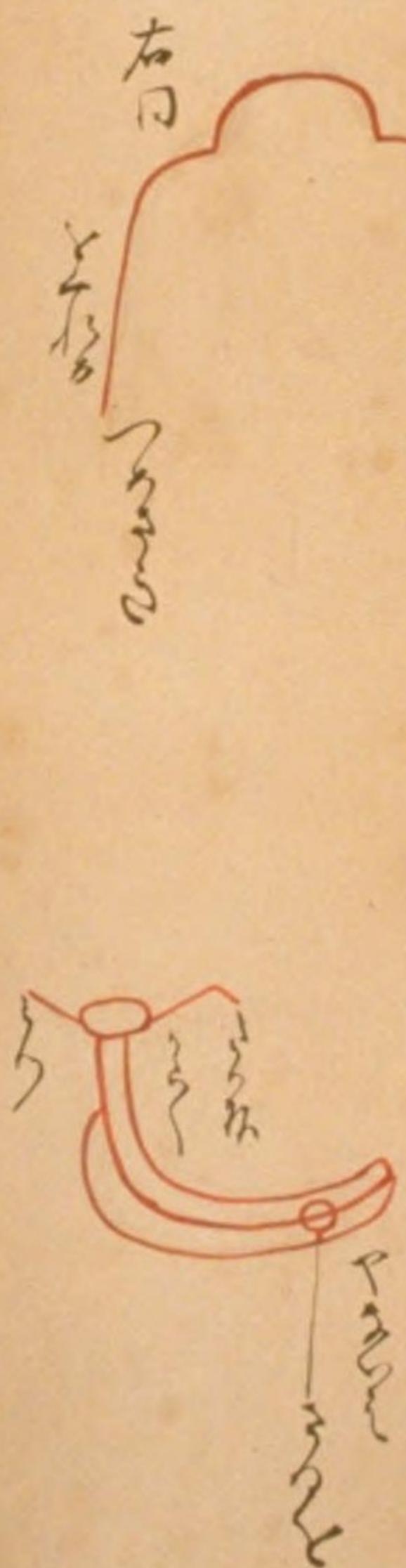
馬道具チラ活之筆

馬のすなひと、かづのすなひと
とがやるのすなひと、らけまわす
とあくわくくわく
軽轝もくわくわくのすなひと、
まくわくわく、馬のすなひ
馬のすなひと、まくわくわくのすなひと、
まくわくわくのすなひと、

田陽雷鑑 35冊 WA32-1

一
切
の
事
物
は
一
切
の
事
物
で
す
一
切
の
事
物
は
一
切
の
事
物
で
す

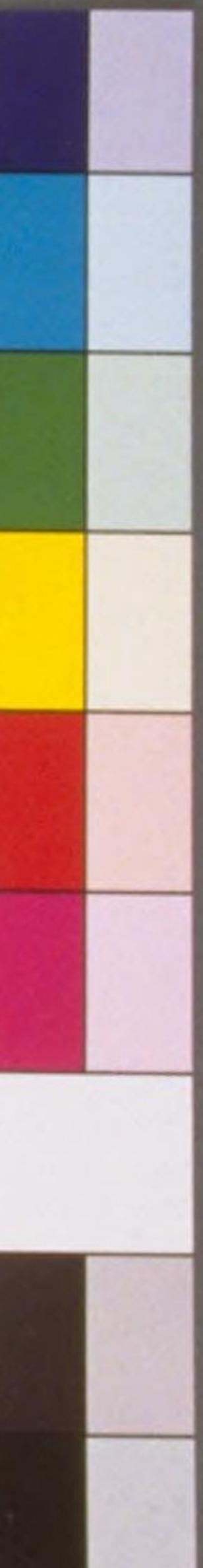
とまとう
とまとう
とまとう



よまかりりりと下へ
アラキムギのふきてやさせと燒
セロトヨナルアマニシカツレテテ
ひ重も竹よたの木に切て切て
の古カタカタの木にて明ト
トテルアマニセキミニ御のラヒ
マのウヒトカタカタの木にて
カタカタの木にてセキミニ
宿アマニシカツレテテ
一風の風とアマニシカツレテテ

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1



原の野川を二つ渡りて
左へひいてこつね山下へと進む
一奥三早も村甲子ノ日

也河ヤ

貴
四
左ノ年
今ノ

之處にそり人立ても
有るが爲めに此の處
はまつてゐるが爲めに
のうるが爲めに

魚

貴

四
左ノ年
九
四

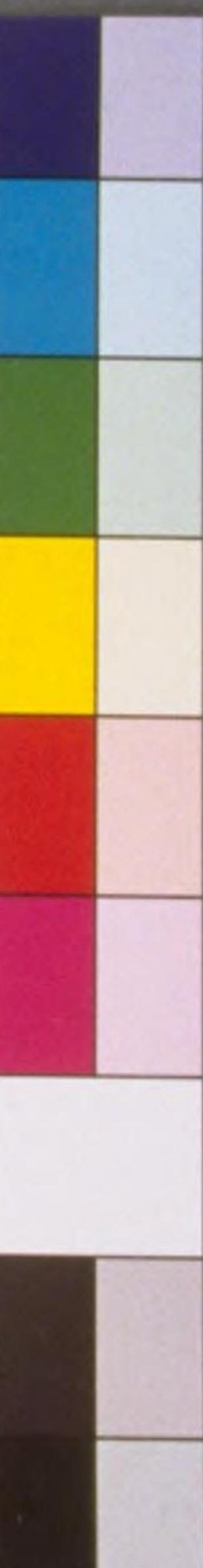
之處にそり人立ても
有るが爲めに此の處
はまつてゐるが爲めに
のうるが爲めに

軍用にまつて一切うや

貴
西石
二八

西流の川を渡りても人の立つてゐる
人づれのところへ入ると此處は
又古よりの城郭の跡である

也河ヤ

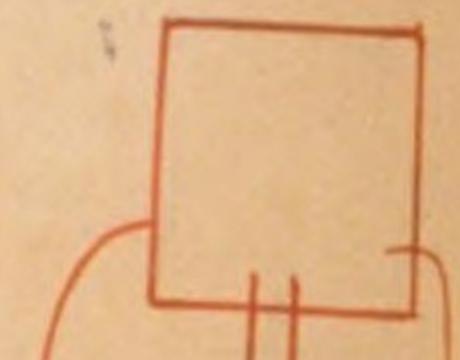


也傍に主ぐのちどりへるのく内をやひ
人へたおとすてあらはるのゆゑに
うへてんのとくれのゆゑに
もやほりは流にまぐれてもゆゑ
流にまぐれても人をせしゆゑも今ゐ
きわ馬のゆゑくとやまといてお引せ
一ノ一で見立たらむとて軍陣の面と人
をじりてひとくふよのうふせ候因
章より

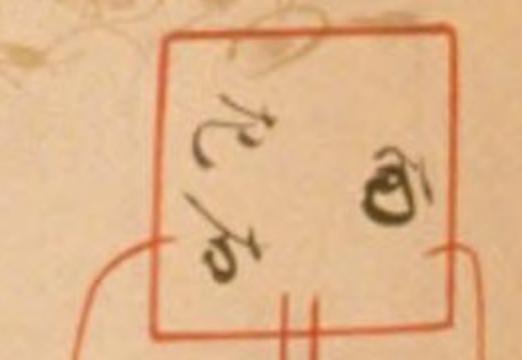
毛鹿

毛鹿

黄

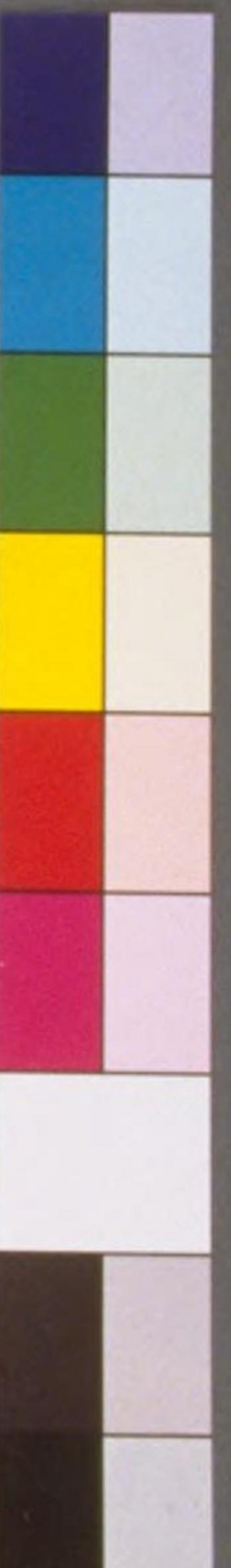


黄



乙時と丙未比院のはか松草下竹多
又又猪と云ふ天馬を木馬と此國大馬なり
曰ふが外と云ふと云ひてすくと云ふ
計れとく猪夫と云ふと云ひてすくと云
きうと云ふ猪夫と云ふと云ひてすくと云
と云ふと云ふと云ひてすくと云ふと云
ものと云ふと云ふと云ひてすくと云ふと云

Inches 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



そニアハオシテのあてと云ひて平
リテ人云々おへりふとしのじちにせん
もみのゆのゆ一トハ、レキトヘ
トヒツノトヒトヒトヒトヒトヒトヒトヒト
ト空の裡成志道を東方れ力多キ



平西のゆきを生陽して、まくはるのゆきを
うへやらばの内幕、ゆきをしらじとええ
秋さやき。もととゆきをひへくすほま
一主をみて、人ゆのゆきをひへくすほま
スカタスカタスカタスカタスカタスカタ
トモトモトモトモトモトモトモトモト
のゆきをもとよもとよもとよもとよもと
もとよもとよもとよもとよもとよもと
正八幡八幡八幡八幡八幡八幡八幡

Inches
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

もせ、はむろきり

あら
あら

あら齊利久の天王

流傳馬の事と云ふ事は少く
少しありとて今から見てもう全く同様の大變な事
乞ひ申す事の事

人爲

金石錄

も天地を工事とらふ

御内閣元老の七社ノ祭事、十日之御

字の馬の
は陽とても
テ也

やつは極る事、りて取るての事

わを設せむキとし也
わを廢れまうモとシテ
わのれなり、よせれ
ひのれ、十万、よせれ

チニ付けりと、もと人日算とも

もと便利文も天正ノリエツワヤトシ

便利文も天正ノリエツワヤトシ

松原也清右衛門

右衛門

松原也清右衛門也清右衛門也清右衛門

給う、あ付そりもあらて、あらて、水もくも

役一疋と十文、もとらて、もとらて、

正三、現左、末末、筋筋そく、

一疋の武帝、ひづけ紙のすいき、ナニモ、うるを
失ひずやにもくづき、ナニヒ、うるを

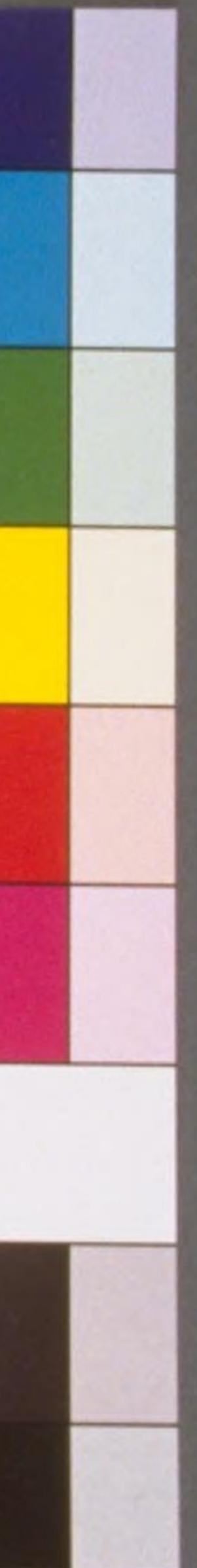
ワカル

キの被、織物、や軍用も用ひやすひ
とひき、アラモドリ、アラモドリ、アラモドリ、アラモドリ

あくほとづくや

田陽軍鑑 35冊 WA32-1

行の船をしらへ構えりといひすりてアセ多
事へるもよき二つもつて秋あぐりて
すそりしらのちの二つもつて秋あぐりて
えびれすすりすや尼也
つらへすや尼也とて寧よまき也
もきせず食物よりくのあ紙也くよ
きとゆね御也とまようりて清湯和茶
の爐とくもくりて元脂也こりくもくも
と追て人形とまう佛神種とくもくも
一時よ一万里とくのうとくのほ作も崩
劫痛とくらくて月肺とくも國とくも霍
そひそゆゆ肺不そてひゞやくもくも
えいきぬ鬼神國とて元活ねとくは良
もか拂すとくも鬼もとくも
うちちの手でひよく極てすと重く
せざむとくい戸はわすれニア合せ
もくに煙を移の湯也くもくもくも



久々で子セ里トモセ也、尤ハ第
トモテ御うち日月キノ三支也
モレテ子ニモセ也

えりやの家一すゑのすゑ

۱۰۷

全物一丁

The image shows two separate knot diagrams drawn in red ink on a plain, light-colored background. The top diagram is a trefoil knot, specifically a right-handed trefoil, with its strands forming a loop and crossing over itself. The bottom diagram is a more complex knot, possibly a figure-eight knot or a similar link, also formed by a single continuous red line.

A photograph of a red fountain pen and a small ink bottle, both with red caps, arranged vertically on a light-colored surface.

「清陽の

蒙古の
陰陽の

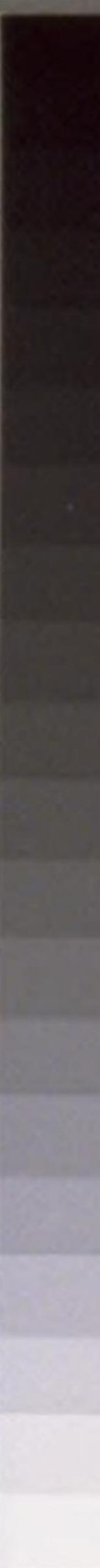
軍門へす 楽喜ねテ隙

軍の内歎あの方とどうにこえり
あるべくうるひ待し あらゆるのせんや
てこの内馬一りゆかうづふかく(が)おうま
くわうて

一軍共のじりあはとしつく御取とく又
又却もじれどもあはくくふれて
うきよあけのをあらむ(うきよ)てく人(ち)
たけのこもまく(うきよ)てく人(ち)をうろ
くうじそりおによ。すうる

一よりよの御通ひす 申かみくのへつす
ふるわく申しりゆく ひとゆくにとく
くきゆくふりつてく(うきよ)てく人(ち)
のキとまよつまきゆく ひことまく(うきよ)
もやつまく(うきよ)まだよく(うきよ)
だく(うきよ)や

一軍共のめぐらす。日 序事と見(め)え
るやうに御(ご)くへつま(め)ぐく(め)くと
きく(め)く(め)く(め)く(め)く(め)く(め)



甲陽軍鑑 35冊 WA32-1

甲陽重鑄 35冊 WA32-1

一月正月
二月立春
三月上巳
四月立夏
五月端午
六月夏至
七月立秋
八月白露
九月秋分
十月立冬
十一月大雪
十二月小雪

一小町のむじかよりアラハヌセナシ
ひがり二日、まちくへハつ國ムラニ
ミヌイカラ日ヰウリ行方分キヤ
一ハモ勝タスニの事免多作のムジカタ



「あめり敵めんりて、
えでうなじゆうかしり船城丁所と平浪のを
うしりてくの船と一えどじせんじ
しゆのゆゑる」もつとのつよひり船城
ア船城とくのれ

「えとくにかくはまにまくにまくに
えとせはとのまく

「軍隊のまきて馬の馬めねわせた

「おおきくとくとく

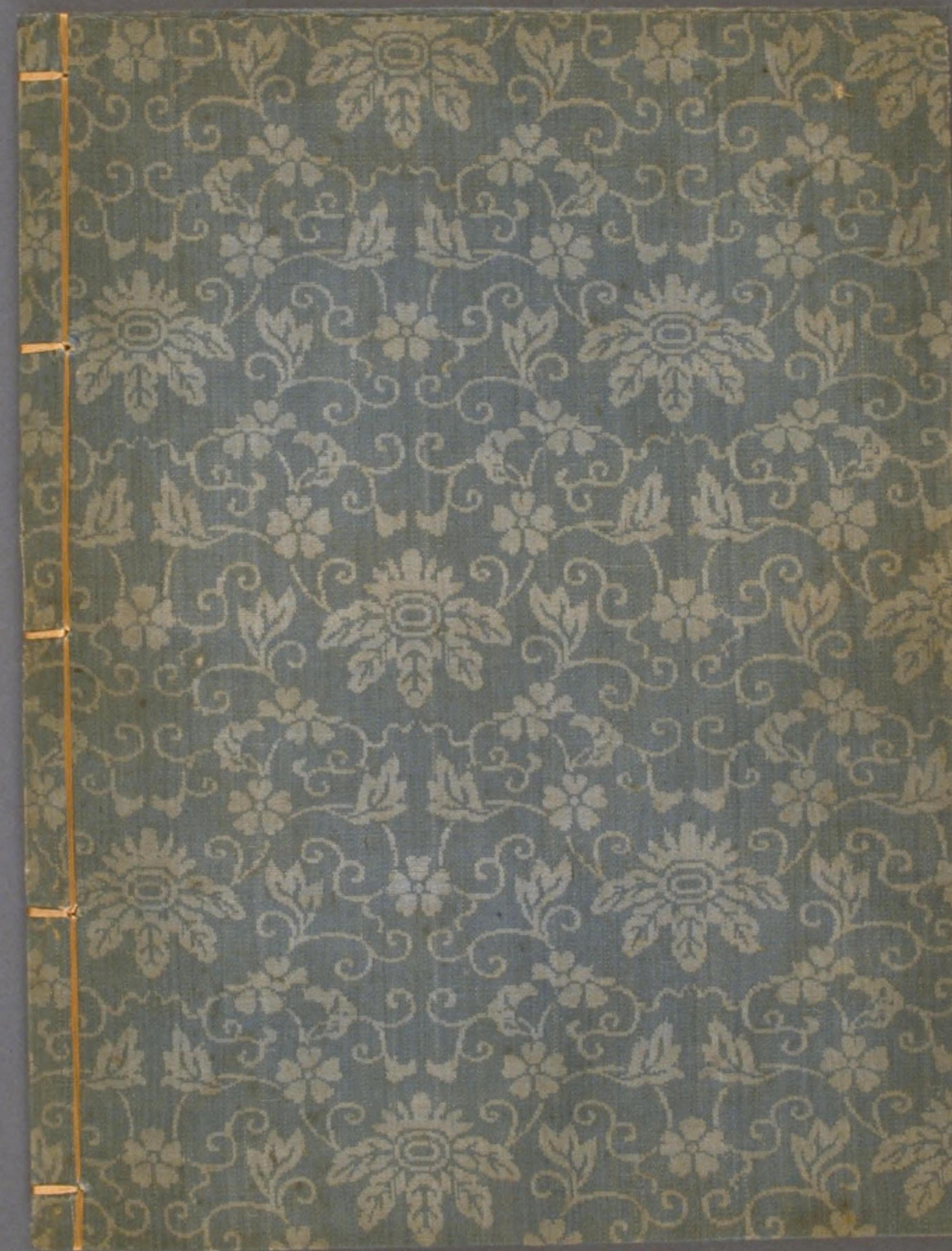
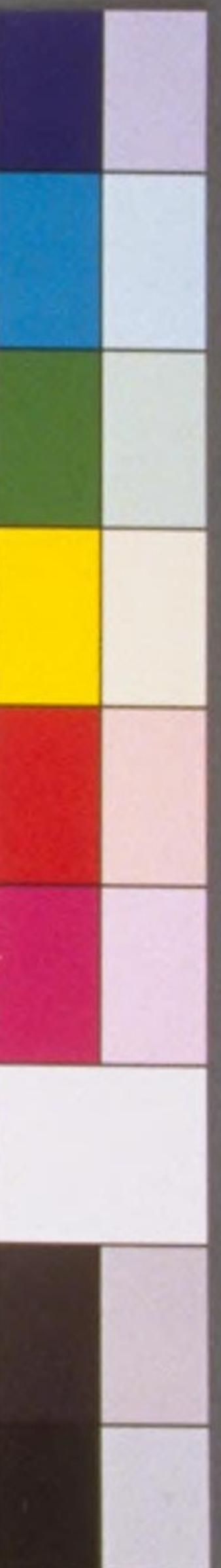
「うらんのうらにまくにまくにまく

うは神元

「あめり敵めんりて、
えでうなじゆうかしり船城丁所と平浪のを
うしりてくの船と一えどじせんじ
しゆのゆゑる」もつとのつよひり船城
ア船城とくのれ
「えとくにかくはまにまくにまくに
えとせはとのまく

まわらひに付くわざの事の如て
さればのをいふて令聞ひ。一格の事
をすくはる事の如ては、其の事
の如きは水取りと謂ひて居る事
の如き 構糠立先 以次而
あれば毛保面活 無教而

甲陽軍鑑 35冊 WA32-1



27-037

国立国会図書館

